

さがみの水

主な内容

2面 ■ 水を止めない運用力
■ 使用量が急変!?いつもと違う水の動き

3面 ■ 水質の安全管理
■ 水道100歳時代 ほか

4面 ■ プレゼントコーナー ほか

江ノ島海岸

海開き～

大

晦

日

W杯

日本代表戦

箱根 大文字 焼き

あつぎ
鮎まつり

晴 れ 間 の

湘南ひらつか
七夕まつり



神奈川の水守り人

寒川浄水場
水運用課 青木さん

どんな日でも、十分な「水」。

水需要の特異日があっても、誰もがいつものように水を使える。
「普通のこと」を維持するために、県営水道は働きます。

上でご紹介しているのは、普段よりも水の使用量が急激に変化する特異日の例。例えばサッカーW杯。ハーフタイムの間にトイレ、試合終了後にはお風呂。水の使用量は顕著に増えます。例えば年末年始。大晦日は大掃除などで水はたくさん使われますよね。そして、除夜の鐘が鳴って年が明ければ、もう元旦。すると炊事や家事が控えられ、水は極端に使われなくなります。

使われる水の量に対し浄水場から送る水が少なければ、じゃ口から水が出なくなってしまいます。それを避けるためには、特異日を予測し準備をしておかなければなりません。過去のデータからそんな特異日を見つけ出し、必要な時に必要な量の水を送ること。それも私たち県営水道の仕事です。今号ではそんな仕事を支える「配水運用管理システム」についてご紹介します。

水の使用量の変動をつかんで各地に配水する量をコントロール。

県営水道には、114ヶ所の配水池や94ヶ所のポンプ所があります。浄水場でつくられた水は浄水場のポンプで送り出され、ご家庭や工場にお届けする前にいったん配水池に溜められます。これらの配水施設を一元的に管理するのが、「配水運用管理

システム」です。水がたくさん使われる時間帯でも足りなくならないよう、あまり使われない時間帯に水を溜めておいたり、使われる量が大きく変化すると水圧も変わるので、圧力が急変しないようバルブの調節などを行っています。このように、このシステムを使って24時間365日、常に配水施設の状態を見守り、安定して水が送れるようにしています。